

令和6年度第2回広島市公立大学法人評価委員会 会議要旨

1 開催日時

令和6年7月30日（火） 13:50～15:10

2 開催場所

広島市立大学サテライトキャンパス セミナールーム1

3 出席者

(1) 委員

石田委員（委員長）、河原委員、原田委員、深井委員、深見委員

(2) 公立大学法人広島市立大学（令和5年度業務実績の評価に入る前に退席）

若林理事長（学長）、田村理事（副学長）、渡辺理事（副学長）、金森理事（事務局長）、事務局次長（事）企画室長、教務・学部運営室長、地域共創・研究推進室長

(3) 事務局

企画総務局長、行政経営部長、行政経営課長

4 議事

令和5年度における業務実績に関する評価について

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

0名

7 会議資料名

(1) 資料1 広島市公立大学法人評価委員会 委員名簿

(2) 資料2 令和5年度における業務実績に係る評価委員会委員からの質問に対する回答について

(3) 資料3 令和5年度における業務実績に関する項目別評価（総括表）

(4) 資料4 令和5年度における業務実績に関する評価表（小項目・大項目評価）

(5) 資料5 令和5年度における業務実績に関する評価表（全体評価）

(6) 参考資料1 公立大学法人広島市立大学の中期目標期間（令和4年度から令和9年度まで）における各事業年度の業務実績の評価について

(7) 参考資料2 関連法令

8 議事の概要

令和5年度における業務実績に関する評価を「A：法人の業務は、中期計画の達成に向けて順調に実施されている。」と決定した。

9 発言要旨

(1) 小項目評価

ア 教育

（小項目①「全学共通教育内容の充実」について）

(原田委員)

- ・ 取組内容の全体を見て、質という点において評価した。

(深見委員)

- ・ 教育基盤センターの立ち上げについて評価した。

(石田委員長)

- ・ 教育基盤センターの設置など様々な取組を実施されていることは評価できることを全体評価のコメントに記載することとし、評価としては「B」としてよいか。【異議なし】

(その他の項目)

(石田委員長)

- ・ 小項目②「学部専門教育」、小項目③「大学院教育」、小項目④「特色ある教育」及び小項目⑤「教育方法等の改善(教育の質保証)」については各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

イ 学生の支援と確保

(小項目⑥「学生の確保」について)

(河原委員)

- ・ 学部生の確保に向けた取組については、熱心に取り組まれていると評価するが、大学院の国際学研究科国際学専攻や情報科学研究科の定員割れについては対応を考えないといけない。例えば、ブランド力を高めたり、各研究科をどうしていくべきか考えないといけない。
- ・ 博士後期課程の定員割れの解消が難しいことは分かっているが、博士前期課程の定員割れは解消しないとけない。

(石田委員長)

- ・ 他大学の同様のプログラムでも受験者数の減少傾向は見られるため、特に広島市立大学だけの問題ではないと思う。

(深見委員)

- ・ 入学者の定員確保のために魅力を出すなどしていると思うが、全国的な傾向などを踏まえるとなかなか難しい問題だと思う。ただし、10年後のことを考えると何かしらの魅力を出していくという点を継続的に取り組んでほしい。

(深井委員)

- ・ 4年では学び足りないということがないという点で修士課程まで進学しないと思う。
- ・ どの大学でも修士課程に関する問題は出てくると思う。

(河原委員)

- ・ 国際学部では、中学校社会科・高校地理歴史・高校公民の教職課程について令和7年度から新設予定となっているが、国際学研究科への進学者数を増やすという観点からは好ましくないのではないか。教員に就職できる道を設けることで、国際学研究科まで進学しなくてもよい仕掛けをしているように思える。
- ・ 国際学部の4年生の多くが休学して留学していることが大学院進学しないことに関連しているのではないか。
- ・ 国際学研究科国際学専攻においては、人材育成の目標や定員、内容の見直しなどを行わないと来年度も学生数が減るように思える。

(石田委員長)

- ・ 小項目⑥については、全体評価のコメントにおいて「定員の未充足については懸念するところであり、原因追及と問題の緩和に向けた方策について更なる検討を求めたい。」と記載することとし、評価委員会として「A」と評価してよいか。【異議なし】

(小項目⑦「学生への支援」について)

(石田委員長)

- ・ 小項目⑦については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

ウ 研究

(石田委員長)

- ・ 小項目⑧「研究活動の活性化」、小項目⑨「研究成果の積極的な公開及び還元」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

エ 地域・社会貢献

(石田委員長)

- ・ 小項目⑩「地域連携及び産学官連携の推進」、小項目⑪「生涯学習ニーズ等への対応」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

オ 平和

(石田委員長)

- ・ 小項目⑫「平和」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

カ 国際化

(石田委員長)

- ・ 小項目⑬「国際交流の推進」、小項目⑭「日本人学生及び留学生への支援の充実」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

キ 業務運営の改善及び効率化

(石田委員長)

- ・ 小項目⑮「戦略的、機動的かつ効率的な運営体制の構築及び運営の実施」、小項目⑯「社会に開かれた大学づくりの推進」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

ク 財務内容の改善

(石田委員長)

- ・ 小項目⑰「財務内容の改善」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

ケ 自己点検、評価及び情報の提供

(河原委員)

- ・ 教育に係る「内部質保証」について、大学院に対しても内部質保証に係る体制を構築していることは評価できる。
- ・ 公益財団法人大学基準協会が主催する事例報告会において、見本として事例報告を行うよう要請があったという点は評価できる。

(石田委員長)

- ・ 小項目⑱「自己点検、評価及び情報の提供」については、全体評価のコメントにおいて「大学院まで工夫して必要以上に取り組んでいるということについては評価したい。」と

記載することとし、評価委員会として「A」と評価してよいか。【異議なし】

コ その他業務運営

(石田委員長)

- ・ 小項目⑨「その他業務運営」については、各委員の評価が一致するため、評価どおりとしてよいか。【異議なし】

(2) 大項目評価

(大項目⑨「自己点検、評価及び情報の提供」について)

(石田委員長)

- ・ 小項目⑩が大項目⑨を兼ねているため、同じコメントを記載した上で、評価委員会として「A」と評価してよいか。【異議なし】

(その他の項目)

(石田委員長)

- ・ 大項目①「教育」、大項目②「学生の確保と支援」、大項目③「研究」、大項目④「地域・社会貢献」、大項目⑤「平和」、大項目⑥「国際化」、大項目⑦「業務運営の改善及び効率化」、大項目⑧「財務内容の改善」、大項目⑩「その他業務運営」については、各委員の評価が一致するため評価どおりとしてよいか。【異議なし】

(3) 全体評価

(石田委員長)

- ・ 大項目評価の結果を評価基準に照らすと、業務実績に関する全体評価は「A」となるが、どうか。【異議なし】

(4) その他

(石田委員長)

- ・ 令和5年度における業務実績に係る評価結果については、最終的に各委員からのコメント等を参考に、全体評価としての委員長コメントを作成することになっているが、この文面については、委員長への一任としてよいか。【異議なし】
- ・ 全体評価コメントにおいては、全学共通教育については、全体としてよくやっていると、学生の確保については、懸念を表明するということと、自己点検、評価及び情報の提供については、教育の質保証に関連して、プラスの評価を付け加えるという内容を記載したいと思う。

以上